

つまようじタワー 耐震性競う



工夫を凝らしたつまようじタワーが並んだコンテスト

高校生81組が参加

高校生が、つまようじで作ったタワーの耐震性を競うコンテストが21日、崇城大（熊本市西区）で開かれた。県内外の高校24校から81組が参加。高校生たちは、持ち寄った自慢のタワーが振動に耐えたり、崩れたりする様子に一喜一憂していた。

コンテストは、高校生にものづくりや建物の耐震性への関心を高めてもらうと、同大が企画し、9回目。

タワーは、木工用接着剤を使ってつまようじで骨組みを組み、30センチ四方の台座に高さ50センチ以上、重さ60センチ以下の条件で作成。タワーにおもりを載せたうえで、地震に見立てて水平方向に振動させる。徐々におもりの重量を増やし、どこ

まで耐えることができるか——との方法で耐震性を競った。

建築士を目指しているという熊本工高建築科3年の

甲斐胡桃さん(18)は「つまようじを何本かくっつけて太くし、上からの荷重や揺れに耐えられるように工夫した。耐震性は命を守るために大切なので、今日学んだことを生かしていきたい」と話した。